

健康起因事故発生状況と取組について

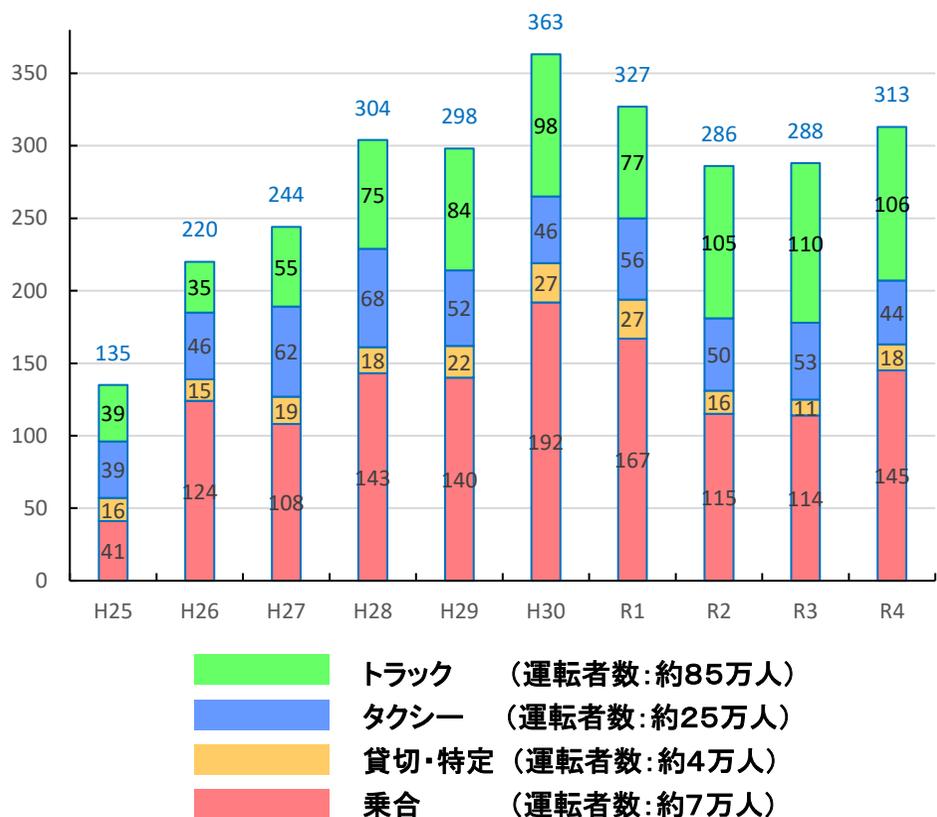
令和5年度第2回 事業用自動車健康起因事故対策協議会

運転者の健康状態に起因する事故報告件数の推移

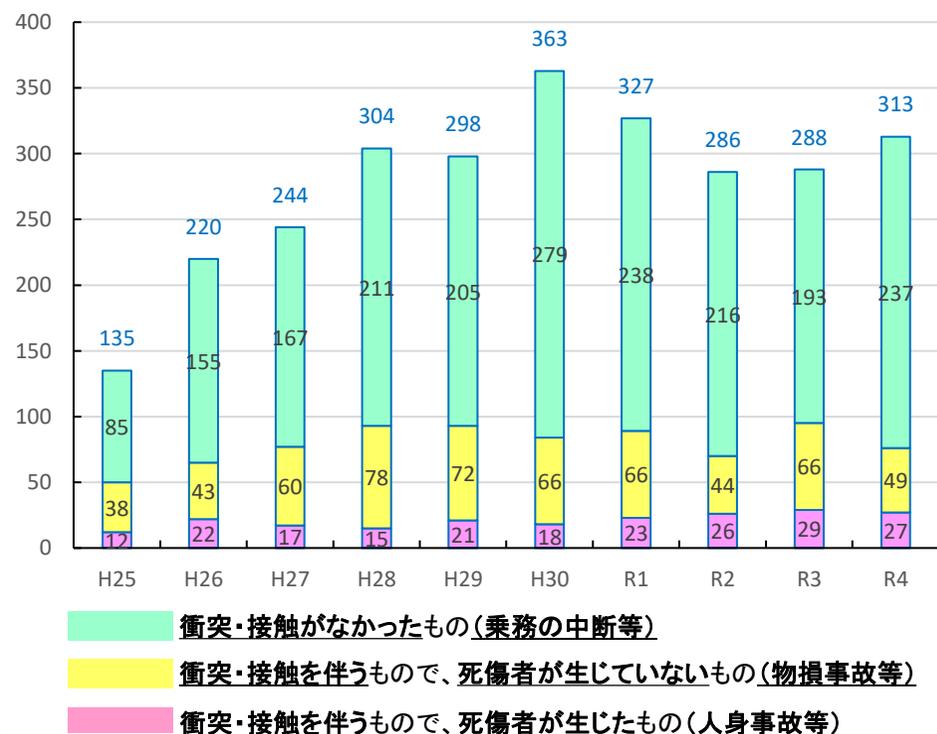
○運転者の疾病により事業用自動車の運転を継続できなくなった事案として、自動車事故報告規則に基づき報告のあった件数は、高止まりの状況。

○令和4年は健康起因事故報告件数のうち3割が交通事故に至っており、更なる低減が必要な状況

健康状態に起因する事故報告件数 (業態毎の件数)

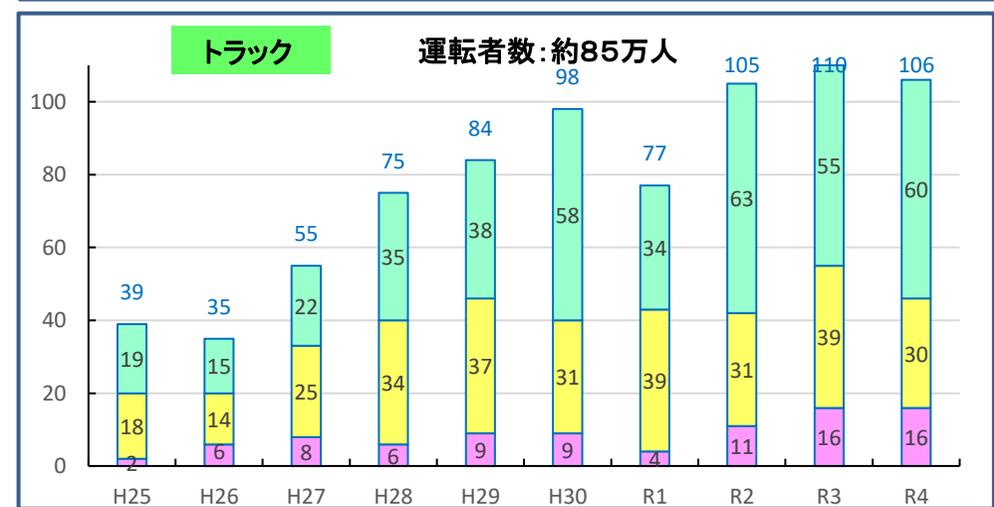
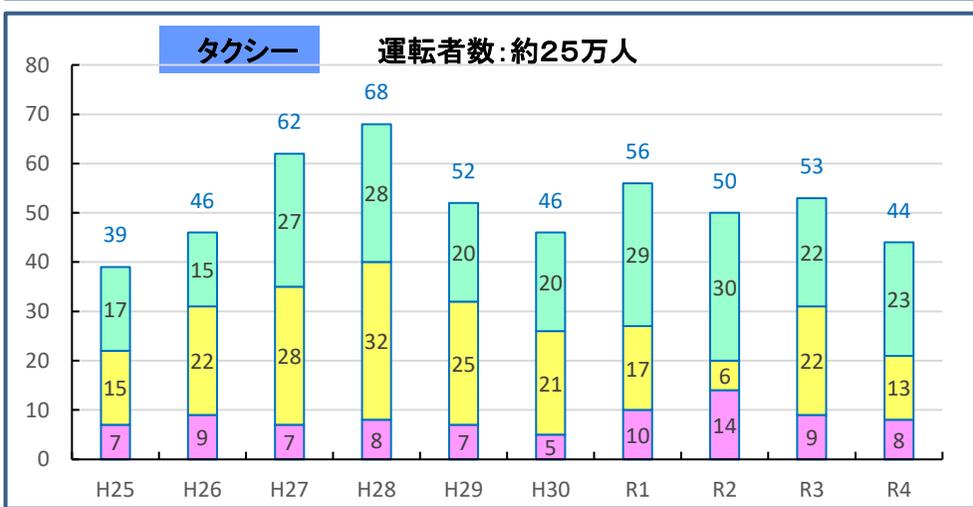
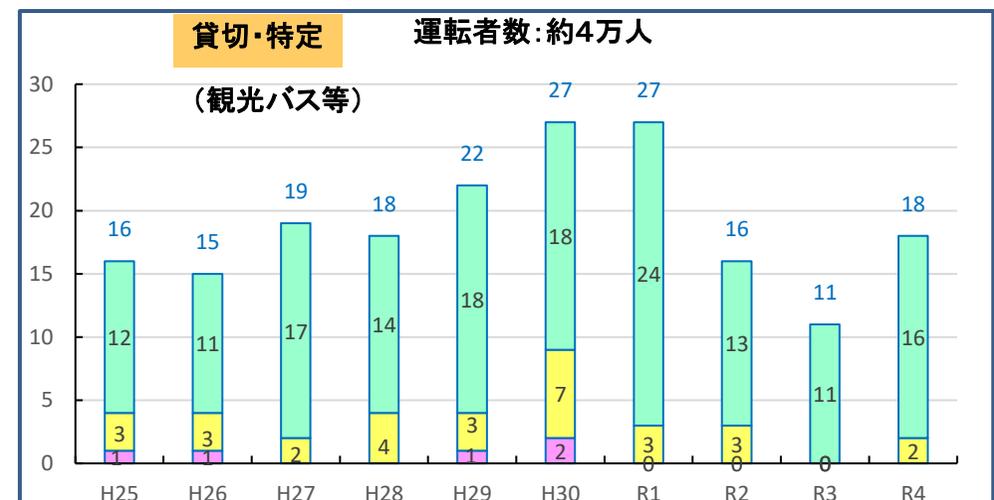
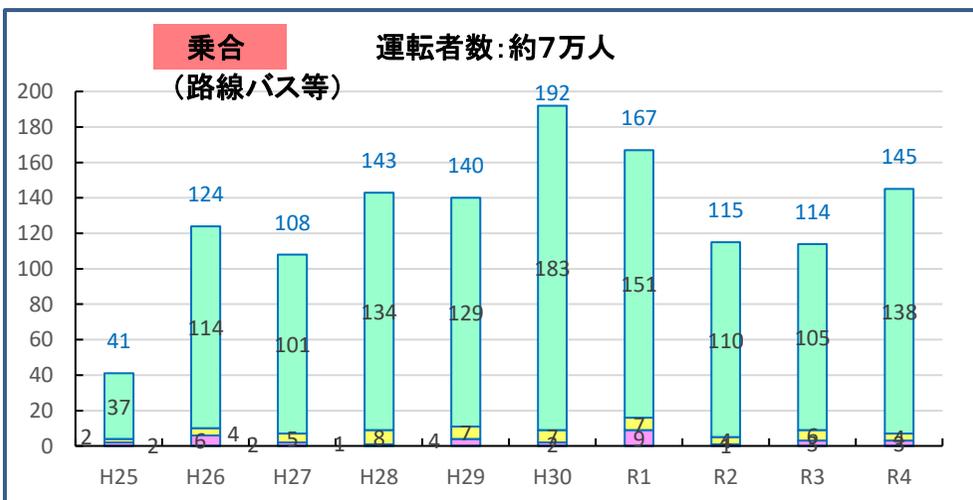


健康状態に起因する事故報告件数 (報告内容毎の件数)



業態別の健康状態に起因する事故報告件数の推移

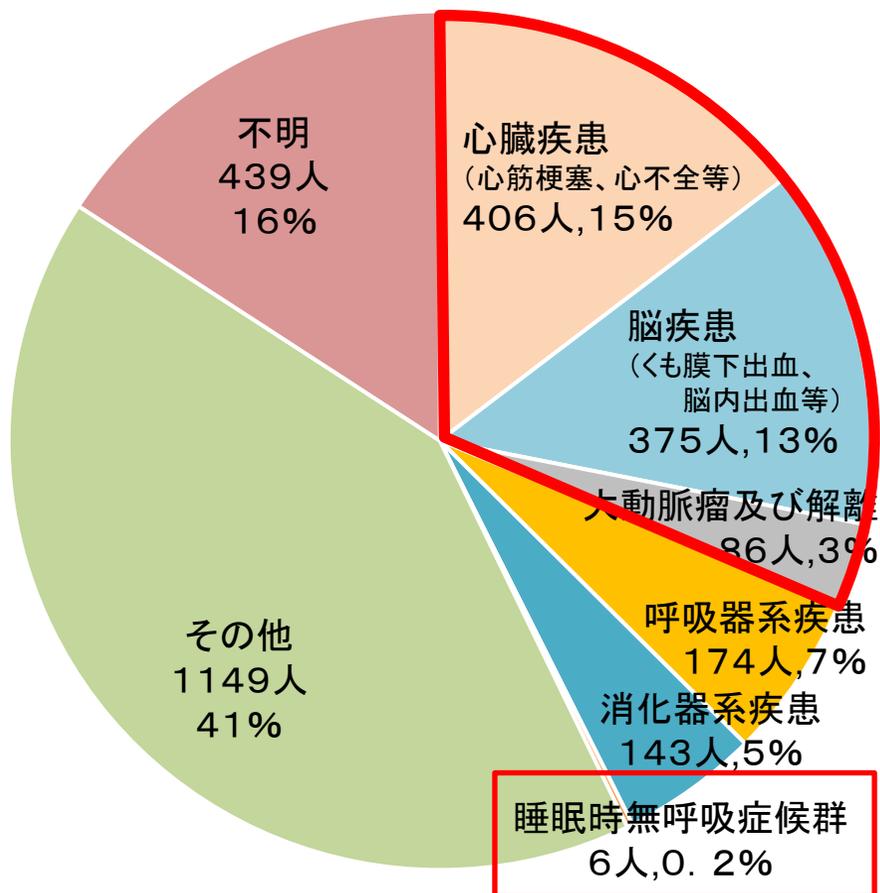
- 各モードにおいても健康起因事故の報告件数は高止まりの状況。
- バスの多くは事故に至らずに乗務の中断を実施している一方、タクシー、トラックでは約半数が事故に至っている。
- 物損、人身事故に至った割合(事故件数/運転者数)は、全モードでほぼ同じである。



○過去10年間で健康起因事故を起こした運転者2,778人のうち心臓疾患、脳疾患、大動脈瘤及び解離が31%を占める。
 ○うち、死亡した運転者470人の疾病別内訳は、心臓疾患が54%、脳疾患が11%、大動脈瘤及び解離が13%を占める。

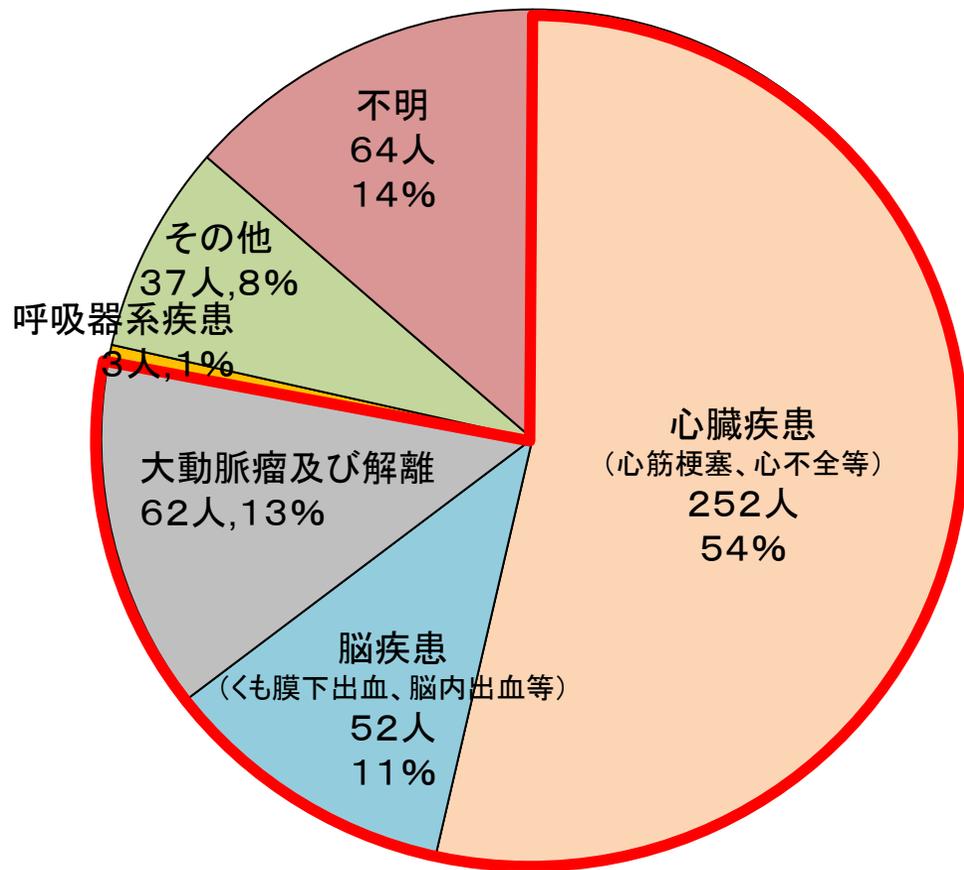
健康起因事故を起こした運転者の疾病別内訳 (平成25年～令和4年)

計2,778人



健康起因により死亡した運転者の疾病別内訳 (平成25年～令和4年)

計470人



睡眠時無呼吸症候群(SAS)の事例について

OSASが関わる事故の発生状況を把握するため、**SASが疑われる居眠り運転、漫然運転による事故**を健康起因事故として報告することを明示するように、**通達改正(令和4年3月)**。

○令和4年3月以降、4件の報告事例あり。

(代表例)

【バス】

運転者年齢:39歳 被害:軽傷

当該運転者は、運行開始から約5時間後、バスを運転中に運転操作を誤り自車が左に進行し、左方にある電柱を回避しようと右ハンドル操作したが間に合わず、自車左前部が電柱に衝突した。この事故によりお客様2名が軽傷を負った。**事故発生後**、念のためSASの精密検査を受診したところ**受診結果に基づきCPAPを開始した**。

【トラック】

運転者年齢:46歳 被害:軽傷

当該運転者は、点呼実施後1件目の納品先に向かう途中、ウトウト運転により路肩に停車中の車両に衝突した。この事故により相手方の運転手が軽傷を負った。**事故発生後**、SASスクリーニング検査を実施したところ、**睡眠障害があることが判明**した。

国土交通省の主催するセミナーの他、他団体が主催する事業者向けセミナーやシンポジウムの場などを通じて、健康起因事故防止の取組について周知を図っている。

【令和5年度の活動(今後の予定含む)】

- | | |
|---------------------|-----|
| ○ 国土交通省主催セミナー | 7回 |
| ○ 他団体主催セミナー・シンポジウム等 | 10回 |
| ○ 出前講座 | 1回 |

【令和5年度の主な講演(国土交通省主催以外)】

6月15日 全国交通運輸労働組合総連合政策討論集会(主催:全国交通運輸労働組合総連合)

- ・国土交通省から健康起因事故対策に関する施策説明後、意見交換実施

8月1日 安全運行サポーター協議会特別講演(主催:安全運行サポーター協議会)

- ・国土交通省から健康起因事故対策に関する施策説明後、意見交換実施

12月8日 OCHISセミナー (主催:NPOヘルスケアネットワーク(OCHIS))

- ・国土交通省からの施策説明
- ・OCHIS 作本副理事長より、OCHIS20年間の歩みなどについて講演
- ・全日本トラック協会 大西調査役より、トラック運送業界における取組について講演 等